

2014年12月15日

報道関係の皆さま

スウェーデンから技能者を招聘
施工精度の更なる向上をめざして

スウェーデンハウス株式会社(本社:東京都世田谷区、代表取締役社長:岡田正人)は、2014年10月8日から12月21日まで、スウェーデンから技能者を招聘し工事現場の指導・確認にあたらせました。木造住宅建築の分野では、外国から高度な技術者を招く前例がないため難航しましたが、法務省の理解を得ることができ10月8日の来日にこぎつけることができました。

スウェーデンハウスは2013年6月28日の記者会見の場で

**2020年の「省エネ基準適合住宅の義務化」に際して
スウェーデンハウスは標準仕様で住宅性能をクリアする**

ことを発表していますが

今回は単なるスペック競争を避け、住宅性能を担保する施工精度向上を念頭にスウェーデンから技能者を招いたものです。弊社は創業以来、高性能住宅のトップランナーとしてわが国の住宅業界を牽引してまいりましたが、これからもその理念にいささかの変更はございません。



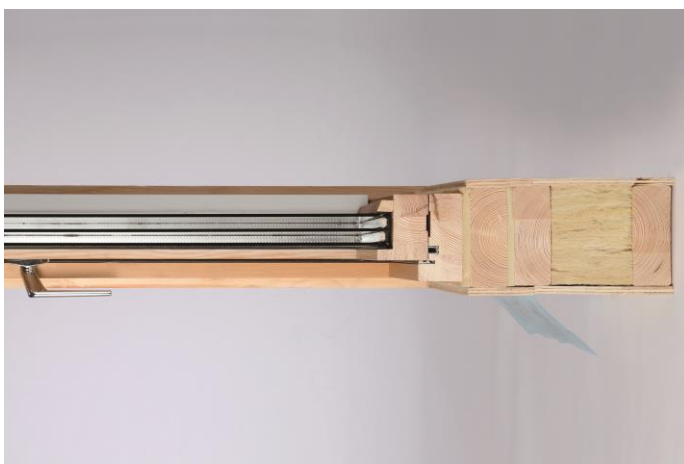
■住宅建築～こんなにも違う日本とスウェーデン

スウェーデンでは 1950 年に気密・断熱・遮音・換気・居室の広さや階段幅の基準が法整備されました。弊社が北海道当別町にスウェーデンから実験住宅を建てたのが 1980 年ですから、スウェーデンの法整備から 25 年以上経過していました。気密・断熱性能は勿論のこと、階段幅 1m を超える住宅に、当時はオーバースペックな建物として映りました。高性能住宅に対しては住宅金融公庫の融資額で優遇措置はありましたが、建物性能が義務化されるのは 2020 年。スウェーデンから遅れること 70 年でございます。

■スウェーデンハウスの工法と性能

(1)木製サッシ 3 層ガラス窓

気密・断熱性能を維持するうえで、窓は最重要ともいえるパーツです。弊社では、2002 年からスウェーデンの現地工場でのこの窓を生産しています。住宅性能に欠かせない窓を、住宅メーカーが責任をもって生産しているのはスウェーデンハウスだけです。また、日本の防火基準に適合するため多くの実証を重ねてまいりました。



<窓パネルと接合部>

(2)創業以来変わらない性能

部材の変更などマイナーチェンジはありますが基本性能は創業時のままです。1 棟目のお客様も 3 万棟目のお客様も、快適性能は変わりません。外壁材や住宅設備などによる価格差はあっても、同等の高気密・高断熱の住まいです。「SAKITATE」や「HUS Eco」など住まいに新しい風を吹き込んでも基本性能は同じです。快適な生活空間をお届けするためには、一つのスタンダードを堅持しなくてはなりません。

(3)気密性能を守るための工夫

2020 年の「省エネ基準適合住宅の義務化」には気密性能の基準がありません。しかし、弊社は「全棟高性能保証表示システム」で謳う C 値測定は、お引渡し前の品質確認として重要と考えています。スウェーデンハウスを選んでいたお客様にお約束した「快適な住空間」をお届けするためには欠かせない確認作業なのです。床とパネル、パネルとパネル、パネルと天井…それぞれにスウェーデンハウスならではの工夫があります。



<床とパネルの接合部

ガイドレールの上にパネルをはめ込み気密性能を確保>

■気密性能にこだわる訳

1999年から「全棟高性能保証表示システム」を採用し、カタログや机上の計算だけではわからない建物性能を確保してまいりました。お引渡し前に1棟1棟気密性能を測定し、スウェーデンハウスとしての性能を確かめていたわけです。一定以上の数値であることを確認することは、同時に施行精度の確認でもあります。スウェーデンハウスをお建ていただいたお客様のご期待にお応えするため、また換気や冷暖房効率を確保するため、1999年以降のデータを活用し、今後も1棟1棟の気密測定を堅持してまいります。

《お願い》

記事掲載用写真は、弊社ホームページニュースリリース

「スウェーデンから技能者を招聘」

からダウンロードしていただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問い合わせ先

スウェーデンハウス株式会社 広報企画部 中・平尾まで

TEL : 03-5430-7637 FAX : 03-5430-7110

E-mail : shkoho@swedenhouse.co.jp